



ゆい くに 「結の故郷 越前おおの」

人を結び、時を結び、地域を結ぶ まちを目指して

福井県 大野市 建設部 建設課

1. はじめに

私たちのまち大野市「越前おおの」は、福井県の東部に位置し、霊峰白山の支脈の山々に囲まれた、おいしい水と緑豊かな自然環境に恵まれたまちです。

今からおよそ430年余り前、織田信長の部将であった金森長近公が大野盆地を見渡せる亀山に城を築き、その東麓に碁盤の目の城下町をつくり始めたのが、現在の市街地の起源となっています。

大野市は、この城下町誕生から続くとされる七間朝市など歴史的な景観や風情を今も色濃く残していることから「北陸の小京都」と呼ばれ、近年はまちなか散策を目的とした観光客が増加しています。

また、県内最大の市域面積の8割余りを占める広大な森林は、「星空が日本一美しいまち」に選ばれるほどの澄んだ空気と豊かな水を育み、市内にある湧水地の一つ「御清水」は名水百選に、「本願清水」は平成の名水百選に選ばれています。このように地下水が豊富な当市では、酒、醤油、味噌などの水を生かした食文化が生まれ、現在でも多くの家庭が飲料水などに地下水を利用する等、特有の湧水文化が今日まで受け継がれています。



このように魅力あるまちですが、地方を取り巻く経済・社会情勢が年々厳しさを増す中、急激な少子化・高齢化に加え人口の減少が大きな問題となっています。

こうした状況を踏まえ、平成 23 年 2 月に策定した「第五次大野市総合計画」(平成 23 年度～平成 32 年度)に基づき、10 年後の将来像「ひかりかがやき、たくましく、心ふれあうまち」を目指して「市民力」と「地域力」を生かした市民総参加型の市政を推進しています。

ここでは、現在、当市で進められている道路整備やその関連施策を紹介させていただきながら、「道路」というツールを通して、将来像の実現に繋がられるよう取り組んでいる内容について説明したいと思います。



越前大野城



城下町の風情が残る寺町通り



七間朝市



御清水 (名水百選)



昭和初期の御清水



昭和 30 年代の湧水地

2. 着々と整備される道路ネットワーク

当市の幹線道路として、市内を南北に通る一般国道 157 号、東西に通る一般国道 158 号があり、また、東海北陸自動車道と北陸自動車道を結ぶ中部縦貫自動車道の整備が現在進められています。

国道 158 号は、県都福井市への最短ルートであり、市民の生活道路として、また、高度医療体制が整備された中核病院がない当市にとって、救急救命及び災害支援などに不可欠な、まさに「生活と命の道」です。現在、福井・大野間のバイパス整備約 32km のうち、約 27km の整備が完了しましたが、残る約 5km の早期整備が望まれています。

また、市街地東部から岐阜県境までの約 50km については、急峻な地形で線形不良箇所が多く、交通事故や自然災害等が発生し長時間通行止めとなることも珍しくなく、雨量通行規制区間でもあることから、災害時の対策や救急医療活動に支障をきたしています。

このような道路状況である当市にとって、中部縦貫自動車道は広域交通の円滑化や文化・観光資源を生かした地域振興や産業経済の発展、地震など災害時の緊急輸送・救急医療活動の支援、冬季における安全で安心な交通の確保のために真に必要な道路であり、まさに「生命（いのち）の道」「生活の道」「希望の道」です。

福井北 JCT から大野 IC までの永平寺大野道路は、かねてから要望している平成 28 年度までの全線供用開始が期待でき、このうち今年度末には、新たに勝山 IC～大野 IC の供用が予定されています。

また、大野 IC から油坂までの大野油坂道路は、和泉 IC から油坂までの 15.5km が平成 24 年度新規事業採択となり、未事業化区間は大野 IC から大野東 IC までの約 5km を残すのみとなりました。

東日本大震災後、災害に強い国土づくりのため、ミッシングリンク解消による高規格幹線道路網の早期完成が求められているなか、日本海側と太平洋側を繋ぐ国土東西軸の要として、早期整備の必要性が広く認識されるようになってきており、関係各位のご尽力もあり着実に整備が進んでいます。



中部縦貫自動車道の整備状況

3. 越前おおのまるごと道の駅ビジョンの具体化

中部縦貫自動車道の開通は、医療機関へのアクセス向上など地域生活の安全・安心の確保や、災害時の東名高速道路や北陸自動車道の代替ルートとなるほか、地域経済活性化の起爆剤としての期待が寄せられています。

当市では、第五次大野市総合計画や大野市都市マスタープランの中で、越前おおのまるごと道の駅構想

を掲げており、市と市民や関係機関とが、「まるごと道の駅」について意思疎通を図りつつ事業を推進していくため、「越前おおのまるごと道の駅ビジョン」を平成24年2月に策定しました。

このビジョンは、市全体を、休憩や情報発信、地域交流などのさまざまなサービス機能を備える「道の駅」とし、市民や地域、各種団体、企業、行政が一体となって地域資源の魅力の向上を図ることで、中部縦貫自動車道の利用者が市内を回遊できるイメージを表しています。

道路を利用して大野市を訪れた人が、通常の道の駅に立ち寄って施設内を見て回るように、市内を回遊して観光スポットや食、文化、人などを楽しみ、大野の魅力を感じてもらいたいのですが、そのためには、「訪れてみたい」と思わせる魅力が、市内にあふれていることが不可欠です。

このため、現在、当市では、人、歴史、文化、伝統、自然環境、食などの素材を、越前おおのブランドとして磨き上げていく越前おおの総ブランド化に取り組んでいますが、先般、まちの全体イメージとなるブランド・キャッチコピーを「結の故郷 越前おおの」と決定しました。

今後はこのキャッチコピー「結の故郷 越前おおの」にふさわしい地域や人となるような取組みを進め、全国に発信し、交流人口の拡大を目指していきたいと考えています。



越前おおのまるごと道の駅ビジョンイメージ

4. 自転車を活用したまちづくりの推進

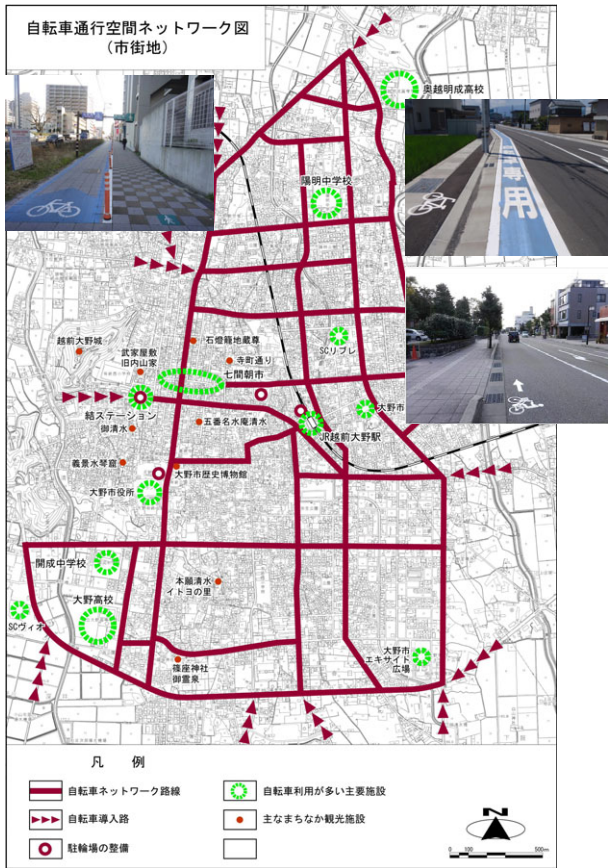
大野市内を回遊するイメージを具体化する施策として、当市が取り組んでいるのが、自転車を活用したまちづくりの推進です。

平成30年の福井国体（福井しあわせ元気国体）において、当市では自転車ロードレース競技が開催されることになっています。

全国各地から多くの自転車ファンや観光客が大野市を訪れることができ、また、国内一流選手による競技を直接目にするすることで、自転車利用の一層の拡大が期待されます。

特に、まちなか観光においても、自転車利用を進めることで、当市の歴史文化に触れるとともに、郊外の豊かな自然を体感でき、より深みのある観光が可能となります。

今年度から検討委員会を開催し議論を重ねているところですが、「安全・安心」、「健康・レジャー」、「観光・まちづくり」をキーワードに、ハード・ソフトの両面から、大野市にふさわしい計画を策定し、今後の整備に向けた具体的な道筋をつけていきたいと考えています。



大野市自転車走行空間ネットワーク図 (案)



自転車を活用したまちづくり検討委員会での議論

5. おわりに

当市のブランド・キャッチコピーにある「結」という言葉には、人と人との日々の暮らしの中での繋がり、そして、これまでの歴史や、今現在においても地域と地域を結ぶ役割を担ってきている道路（街道）も含め、生活や地域の結びつきの中で営んできた「越前おおの」のこれまでの歩みを象徴する意味が込められています。

今を生きる私たちが、先代からこの故郷を受け継いだように、私たちもこの大事な故郷（財産）にさらに磨きをかけ、更により良いものにさせながら次の世代に引継ぐバトンランナーとして、今後も引き続き、活気あるまちづくりに取り組んでいくことが大切です。

特に、第五次大野市総合計画では、平成 32 年度で観光入込客数 200 万人を目指すこととしており、その実現のためには、現在取り組んでいる道路ネットワークを結び繋げることが必要不可欠です。

この「道路」という社会資本を通しながら、ハード・ソフトなどの各種施策を有効に連携させることで、人を結び、時を結び、地域を結ぶ「結ゆいの故郷くに」にふさわしいまちの実現に繋げていきたいと考えています。